

非肥満者における糖尿病発症リスク因子の研究

【背景】2型糖尿病は、膵臓の β 細胞機能障害と標的臓器のインスリン感受性低下によって起こる、相対的なインスリン不足を特徴とした代謝症候群である。(1)糖尿病は患者数の多い慢性疾患の一つで、日本においても、20歳以上において糖尿病が強く疑われる者の割合が、男性で18.7%、女性で9.3%となっている(2)。その患者の多さや併発症から、医療財政に大きな負担をもたらしており(3)、糖尿病患者数の抑制は重要な課題である。

糖尿病を含めた慢性疾患を予防するために、日本では2008年から特定健診・保健指導が開始された。受診者は腹囲やBMIなどの基準により選定され、積極的支援や動機づけ支援を受けることができる(4)。特定健診はメタボリックシンドロームに着目した予防医学の取組であるから、スクリーニングや指導の内容は肥満、とりわけ内臓脂肪型肥満が中心となっている。

特定健診に関わらず、糖尿病は肥満との関連が強いために、BMIや腹囲に注目したリスク因子や減量の効果について、多くの研究がなされてきた。しかし近年、特にアジア系の人種において、非肥満の糖尿病患者に対する注目が集まっている(5)。糖尿病予防を進めていくうえで、非肥満者特有の糖尿病のリスク因子を特定することが重要だが、現在それは明らかになっていない。そこで、非肥満者のリスク因子や、肥満者との差異等を明らかにしたい。

【方法以下】未定

参考文献

1. Chatterjee, S., Khunti, K., & Davies, M. J. (2017). Type 2 diabetes. *The Lancet*, 389(10085), 2239-2251.
2. 厚生労働省. (2020). 平成30年国民健康・栄養調査結果の概要.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000635990.pdf> (accessed Sep 1, 2020)
3. Seuring, T., Archangelidi, O., & Suhrcke, M. (2015). The economic costs of type 2 diabetes: a global systematic review. *Pharmacoeconomics*, 33(8), 811-831.
4. 厚生労働省. (2018). 標準的な健診・保健指導プログラム.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000496784.pdf> (accessed Sep 1, 2020)
5. Kobayashi, K., Chan, K. T., Roy, A., Khan, M. M., & Fuller-Thomson, E. (2019). Diabetes and Diabetes Care among Nonobese Japanese-Americans: Findings from a Population-Based Study. *Advances in preventive medicine*, 2019, 3650649.
<https://doi.org/10.1155/2019/3650649>